

2023年度一般選抜(学部学科試験・共通テスト併用方式)
記述式問題 解答例

学部・学科:2月4日 文学部 哲学科

問題Ⅱ

問1

国家の樹立に必要なのは、道徳的に中立な適法性のみであるため、たとえ道徳的な健全さとは無縁の悪魔であっても、法を理解し遵守する知性さえ持っていれば、法律に基づく国家を樹立することができるため。(95字)

問2

カントの道徳では、自己への立法者であることそれ自体が要請されているため、他者の定めた法を犯すこととは無関係に、自己立法的でないことそれ自体が罪や犯罪となるため。(80字)

問3

政治的な法とは、服従への同意といった人為に基づく制度的な法のことであり、宗教的な法とは、同意や制度に基づかずに神から無条件・無前提に命ぜられる絶対的な命法のこと。一方で、自然な法とは、義務として服従すべきものではなく、服従の意志によらずとも誰もが必然的に従わざるをえない自然法則のことを意味する。(148字)

問4

カントの「自由」は、自分自身が立法者であること、つまり道徳的な法の自律性を意味する。だが、政治的・宗教的・自然的な「法」はいずれも、神からの命令や自然法則といった他律的なものであり、自律としての自由ではない。そのため、それらのもとでの「自由の法」という表現には矛盾が生ずる。(137字)

2023年度一般選抜(学部学科試験・共通テスト併用方式) 記述式問題 解答例

学部・学科:2月4日 文学部 哲学科

問題Ⅲ

出題意図や採点方針 ※テーマの記号[a]~[e]共通

(a) 哲学的関心と好奇心との相違、もしくは両者の関係について

ポイントは、(1)好奇心は、目の前に現前するだけの移り変わりゆくリアリティーや新奇な立ち現われ(さらに流行の動きやスローガンとして顕示されるもの)から喚起されるのに対して、哲学的関心は人間を奥深いところから揺り動かす問題や時代の通俗的な傾向が隠蔽する次元、また単に合理的な整理・解決では掌握できない問いに見舞われるあり方に突き動かされるという根本的相違が存することを示唆することが必要。或いは、(2)好奇心が個人的趣向や一時的で短絡的な状況に依存するのに対して、哲学的関心はどこまでも問い究められることを要求する(人間にとっての普遍性と永続性を有する)思考領野を開くことを決定的差異として指摘してもよい。

(b) 倫理は、一定の歴史的伝統を通して共有された共同体的な善の理解の下で成り立つのか、或いは時代や文化・社会機構の制約と関わりなく普遍的に妥当するものか

倫理の根本的なコンセプトとして、共同体主義(communitarianism)の動向に立つのか或いは普遍主義(universalism)・自由主義(liberalism)の方向をとるべきなのかをこの設問は問うている。倫理における共同体主義と普遍主義双方の互いに相容れない根本的特質に関して、例えば「正義」についてどのように今日の世界状況に鑑みて考えることができるのか(「普遍的正義は可能なのか」)、或いは文化的多元性と倫理の関わりについて問題化して述べることもできる。

(c) 自然美と芸術美の相違について

この設問に関しては、芸術美を成り立たしめる諸要因と芸術美の特徴についての言及があり、それらとの相違において自然美に特有な諸徴表を述べることであれば、カントの独創的な問題構制による問題連関に立ち入ることがなくても、良しとすることにしたい。むしろ、自然美と芸術美のどちらが優位に立つのかについて、近代西洋美学の立論上の思考脈絡の変移を指摘できれば上場ではある。

(d) 人格の同一性(特に、「わたし」が他ならぬ「わたし」であること)に基準は存するのだろうか

人格的同一性(personal identity)についての哲学的議論は、John LockeのEssays concerning human Understandingの第二部27-28章での問題提起と考察、および17世紀当時のイギリスを中心とする論議にその歴史的端緒を有するが、20世紀の特に英語圏で展開の途にあった分析哲学の潮流からの「心の哲学(the philosophy of mind)」の発展段階として、20世紀末から21世紀の初頭に集中的な密度をもって興隆した、という背景が存する。しかしこのような哲学史における問題脈絡に全く言及しなくても、人格の同一性(the identity of person)について志願者たちが論理的に首尾一貫した考究を述べることで設問の狙いとしている。その際、日常的な生活実践においては通常疑われることなく前提とされざるを得ない人格的同一性が、哲学的に問うならば、第三人称に即しての客観的な基準についても、或いは第一人称の主體的自己意識からの基準についても、さらに第二人称に関しても理論的に錯綜したアポリアを呈示することに迫ることができれば十全である。また人格の同一性は通時的(diachronic)な同一性であるが、物語的(narrative)に生成する様相を指摘することも重要な観点である。

(e) 今日における「教養」の在り方と哲学の関係について

この設問でのポイントは、哲学的思惟の育成と確立にとって、(1)今日のネット社会の普及の趨勢による情報の教養への傾斜・依存に対する批判的關係とともに、(2)今日の精神性(mentality)においても肯定的意義を有し重要な要因となる「教養」の在り方について、志願者が一定の明確な考えを示しうるかが問われる。概して「教養」をどのように理解できるかを問題とする。

※ 全体としてこの問題Ⅲは、哲学的な問題設定に如何に応答でき、各受験生が大学に入学後に哲学的な思考脈絡を發展させる上でどのような端緒を表明できるかを重点的に評価するようにしたい。自らが選択した問題設定をその問われている中心ポイントから逸脱せず一定の論述として展開できていること、或る程度、独創的な理解を示すことになっても、論旨が首尾一貫した整合性を有することも評価の優劣の基準となる。個別的な知識の正確さをそれほど考量することなく、むしろ哲学的志操といったものを総合的に判断して評価する。